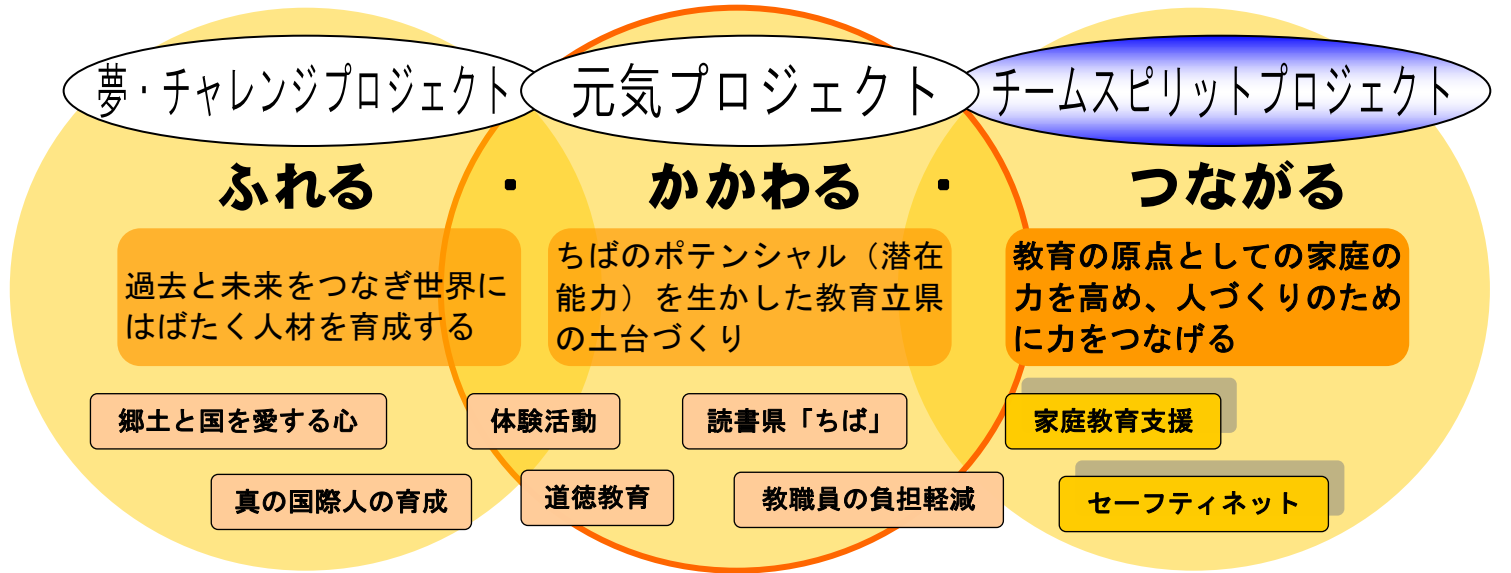


みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン 2010年12月21日(火)発行

前号に引き続き、みんなで取り組む「教育立県ちば」プランの内容をご紹介します。

今号では、「チームスピリットプロジェクト」で目指している数値目標のいくつかをお示しします。ご自分の学校・学級の状況を振り返り、よりよい学校・学級経営にご活用ください。



教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力をつなげましょう

1 学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる

学校評価における保護者アンケートにおいて「学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境が整っている」と回答した保護者の割合（H20年度：82.0%）

平成26年度までに

85.0%

達成を目指します。

2 県内1000か所ミニ集会を企画運営する

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」を地域とともに企画運営している学校の割合（H20年度：25.6%）

平成26年度までに

60.0%

達成を目指します。

3 教育のセーフティネットを確保する

公立高等学校における不登校・中途退学生徒の割合
（H20年度：不登校2.9% 中途退学2.2%）

これまでは行政が家庭教育に立ち入ることはタブーとされていましたが、これからは家庭・地域・学校が積極的に関わっていく必要があります。

この機会に千葉県の取組に対する理解を深め、何ができるかを考えていきましょう。

平成26年度までに
不登校・中途退学の

減少

を目指します。



道徳教育の公開研究会実施

白子町立関小学校

11月16日(火)、白子町立関小学校において道徳の公開研究会が開かれました。同校は、文部科学省より平成21・22年「道徳教育実践研究事業」の指定を受け、伝え合い認め合う学習や体験活動を通し、道徳的実践力の育成を目指し研究してきた学校です。この紙面では、同校の道徳の時間の授業の概要、研究協議会の進め方の工夫、多様な体験活動等をご紹介します。

(1) 道徳の時間の授業の概要

1年生から6年生までの全6学級が「ラウンドテーブル」の形態を取り入れた道徳の授業を展開しました。ラウンドテーブルとは、輪になって学ぶ技法のことでトークングサークルとも言われる手法です。

話し合いや発表の際に、互いの顔を見て発言したり聴いたりすることで、互いの考えを共感したり高めたりすることができました。発言をうなずきながら他者を認める態度が見られ、自分の気持ちや考えを伝えるうえで効果的でした。



1年生の授業

学習指導要領の改訂で低学年に加わった内容項目の「勤労」に焦点を当てました。手伝いは家族の役に立ち、喜んでもらえることを知り、進んで家庭の仕事を手伝おうとする気持ちを育てるために家族からの手紙を効果的に活用しました。

2年生の授業

悲しんでいる友達を元気づける方法を、役割演技を通してとらえさせ、どんな時でも友達と仲良くしていこうとする気持ちを持たせました。その結果、文章だけでは理解できないところを心と体で感じ、体験的に理解する姿が見られました。

3年生の授業

お年寄りに席をゆずるという行為に対し、相手の立場に立って自発的に行動することの大切さに気づかせるために、ネームプレートを活用し、意思決定をさせました。このことにより、自分の考えを明確にし、自信を持って発表することができました。

4年生の授業

命の重みを感じることでできる資料を選択させ、絵本の読み聞かせや、その中に出てくる大きな樹形図の提示の仕方を工夫しました。たくさんの命が受け継がれてきたことに感動を与えられるように配慮した授業を行いました。

5年生の授業

全員発表の手立てとして、資料に線を引かせたり、ワークシートに書かせたりする活動を取り入れました。自分の夢や目標実現のためには、強い意志や周囲の支えがあることに気づかせ、希望を持ち努力しようとする気持ちを持たせました。

6年生の授業

ゲストティーチャーを招きインタビュー形式で学習を進めました。こうすることで、障害のある人の立場を理解し、思いやりの心を持って接しようとする態度を育てることができました。

(2) 校内授業研究協議会の進め方－CA法

従来協議会の持ち方を離れ、CA法(協同分析法)を活用して授業分析をし、授業力の向上を図りました。この方法により、授業の成果と課題が浮き彫りになり、同時に授業研究の足跡を収めたよりよい研究協議ができました。詳しい進め方等については、同校にお尋ねください。

(3) 多様な体験活動と地域的特質

福祉教育を道徳教育の全体計画の中に明確に位置付け、「体験活動」「地域社会との連携」等の心をゆさぶる場の工夫を通して、道徳的実践力を育てるための取組を行いました。これにより、他者を認め、尊重し合う心を育てることができたと考えます。右の写真は、白子グランドゴルフ協会の方々と交流する児童の姿です。



★学童農園推進事業の取組の様子

今年度は、東金市立鶺嶺小学校、いすみ市立千町小学校、いすみ市立太東小学校、芝山町立東小学校、長南町立東小学校の5校が、学童農園推進事業を実施しています。今号では、いすみ市立千町小学校と芝山町立東小学校の2校の取組についてご紹介いたします。

芝山町立東小学校の取組

本学区は、山武郡の北端に位置し成田国際空港に隣接した農村地帯です。学校周辺は、自然豊富な里山に囲まれた環境にあります。昭和50年に千代田小学校と岩山小学校が統合され、今年で35年を迎えた児童数70名の小規模校です。自然の恵みへの感謝や食の大切さを体得させるために、「古代米作り」を通して平成21年度より「学童農園推進事業」に取り組んでいます。

4月に水田の整備や種まきの様子、育苗ハウスの見学。5月に「古代米」(緑米)の田植え。6月に稲の生育観察。9月に案山子作り。10月に藁縄作り体験・地域の方々との稲刈り。11月に粃摺り作業の見学。そして、全校マラソン大会終了後に保護者や地域の方々の協力のもと、収穫した古代米を使った「お餅パーティー」を実施しました。たくさんの種類のお餅を食べ収穫を喜び、保護者や地域の方々とも楽しくふれあうことができました。

学区の教育資源や教育力を生かした参加体験型で継続的な学びを通して、生まれ育ったふるさとの自然の恵みを味わい、食育の大切さを体得することができました。

その他、町栄養士と連携し、芝山町で収穫したお米と本校で収穫した古代米を粉状にブレンドした「おさよ麺」(米粉麺)を給食に取り入れるなど「千産千消」を町全体で推進しています。今後も地域に根ざした取組を積極的に教育活動に活かしていきたいと考えています。



いすみ市立千町小学校の取組

本校は、昭和60年頃から学校脇の水田で、長寿会や地域の方々のお世話になりながら、米作りに取り組んでいます。この農業体験学習を通して、互いに協力し合い、食べ物を作り育てる苦労と喜びを味わいながら、地域の人々とのふれあいを深めてきました。地域の中心産業である米作りは、古き時代から引き継がれている『稲作文化』や地域のよさを見つめなおすよい機会だと考えています。

夏休み明け早々の稲刈りでは、長寿会の方々に稲の刈り方や束ね方・おだかけの仕方を教わります。今年は脱穀してできた藁も、干して稲を束ねるすぐと本校で飼育しているヤギ小屋の敷き藁用にと保存しました。収穫したもち米は、本校の一大イベントである収穫祭を開き、児童・保護者・地域・長寿会の方々約400名が一堂に会し、赤飯や餅団子を作って会食します。一年間米作りでお世話になった方々を招待し、感謝状を贈ることで、収穫の喜びと共に、お世話になった方への感謝の気持ちを表し、地域の人々に長い年月の間受け継がれてきた日本の伝統食文化を体験する機会となっています。

最近、学校給食でもご飯の日が増え、その度に一粒一粒噛みしめながら味わおうとする児童の変容がうかがえます。自分が食べられる量をよそってもらい、無駄にしないようにと気を配るようになってきています。これからも、地域の方々と密着しての農業体験を通して、自分たちの住む地域を深く知るとともに、誇りをもつようになってほしいと願っているところです。



★管理運営研修会が行われました（10月）

平成22年度公立小・中学校管理運営研修会が10月18日（月）に東上総教育事務所で行われました。この研修会は、千葉県教育委員会が主催し、学校の管理及び運営に関する諸問題について共通理解を深め、学校経営の円滑化を図るために行われます。管内の公立小・中学校の3分の1の副校長及び教頭が対象で46名が参加し、「東上総教育事務所管内の教育における現状と課題」「法規及びサービス」「不祥事防止」等について研修しました。



研修会で行われた法規及びサービスの演習を掲載しますので、挑戦してみてください。

- 1 [] 4時間の勤務の割振り変更により、1日の勤務時間が3時間45分となった日に、半日の夏季休暇を承認することは可能である。
- 2 [] 学校職員の勤務時間等に関する規則第3条3項に規定する業務に従事する場合、振替等の上限は、年間116時間であるが、平成22年度は、116時間を超えて振替を行うことができる。
- 3 [] 妊娠に起因する疾病での療養休暇により、当該休暇が発生した日から起算して90日を超えて引き続き勤務しないときは、勤務1時間あたりの給与額が半額になる。
- 4 [] 小学校6年生の子どもを、子宮頸がんの予防接種に連れて行く場合、子育て休暇を承認することができる。
- 5 [] 老齢により一人で歩くことのできない職員の母親が、2か月に1回、病院に検査に行く場合で、職員が母親に付き添って行くときは、特別休暇を承認することができる。
- 6 [] 残日数をすべて使い切る場合、1時間未満の端数（分）の取得を認めることのできる休暇は、「つわり休暇」「男性職員の育児参加休暇」「子育て休暇」の3つである。
- 7 [] 週休日に部活動を行った場合の、教員特殊業務手当の額は、4時間以上の場合1200円で、6時間以上の場合1600円である。
- 8 [] 生徒の交通死亡事故に伴う緊急の職員会議が行われていたが、勤務時間を過ぎたため、2歳の幼児がいる職員から、退勤したいとの申出があった。公務の運営に支障がない限り、この職員には、時間外勤務を命じることはできない。
- 9 [] 妻が育児休業を取得している場合、同時に、夫は、育児休業を取得することはできない。
- 10 [] 妻の出産後すぐに、配偶者である男性職員が4週間の育児休業を取得した。当該子が6ヶ月になったとき、男性職員が、再度、育児休業を申請してきた。妻の入院等、特別な事情がなくても、育児休業を承認することができる。

正解はコチラ→



★東上総モラルアップ委員会「校内研修用事例集」を配布しました（11月）

5年目を迎えた東上総モラルアップ委員会では、今年度も校内研修用事例集の作成に取り組みました。6回の委員会活動を経て、第5集が完成し、11月26日（金）に夷隅文化会館で行われた校長会議にて報告及び配布をしました。

内容は、モラルアップ、人権・セクハラ、情報管理の三部構成で、事例は設問方式にして参考例を掲載し、研修が深められるようにしましたので、各学校での研修に活用してください。

また、年度末には今年度の校内モラルアップ委員会の活動に関するアンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。

★ スクールリーダー養成研修会が開かれました

「教師の授業の力量向上のために」を共通テーマに、小学校算数科、中学校国語科の授業参観をもとにスクールリーダーとしての役割を協議し、研修を深めました。協議は短い時間ではありましたが



小学校4年生算数の授業の検討

- ①指導案はなぜ必要か
- ②授業の見方、視点はどのように持てばよいか
- ③これからの言語活動の充実に向けてやらねばならないことは何か

以上三点を中心にした積極的な話し合いで充実した時間でした。東上総教育の未来を広げる力に今後も期待いたします。

★ 公開研究会を終えて…

山武市立むつみのおか幼稚園

千葉県国公立幼稚園協会・九十九地区幼稚園研究会指定
「ためしてみたいな！わたしの力、ぼくの力を」
～ いろいろな体験活動の中で、自分で考え行動できるようになる保育のあり方を探る ～



4月、憧れの幼稚園教諭という職業に就きましたが、思うように保育ができず、反省を繰り返す毎日でした。保育の準備や振り返りに加え、公開研究会に向けての準備と忙しい日々を過ごしました。当日はあっという間に過ぎ、これまでの日々を振り返ってみると、子どもを取り巻く環境の大切さや職員間の連携の大切さなど多くの学びがありました。今後も子ども達と同じ目線で、共にたくさん笑ったり、泣いたりしながら成長していきたいです。
(むつみのおか幼稚園 鶴見純子)



勝浦市立興津小・中学校

第61回千葉県教育研究会造形教育部会研究発表大会
きらめく感性 ときめく思い うみだせアート
—こころの海に響き合う わたしたちの思い—



1年生の「いいいろ いろいろ じぶんいろ」の授業を参観しました。子ども達は、自分のお気に入りの色水が入ったペットボトルを選んでいました。「表と裏でにじみ方がちがう。」と友達と話す、今日の活動を楽しんでいる声が聞こえてきました。白い和紙に自分のお気に入りの色が広がり、模様ができるしていく過程では、子ども達は新鮮な感動を得ているのが分かりました。子ども達の試行錯誤でイメージが活性化して、和紙が次々に自分だけの色と形に変身していました。
山武市立睦岡小学校 酒井 淳



★まなびフェスタを実施しました 茂原市立富士見中学校

11月25日(木)、茂原市立富士見中学校にて、「ちばっ子」まなびフェスタ'10が開かれました。ここでは、その一端をご紹介いたします。詳しくは、同校までお尋ねください。

研究主題 学習意欲を高め、考える力を身につける指導法の工夫
～学び合いの活動の場を通して～

実際には、「学び合い」を軸にしながら、

①「学び合い」を進める前段階の教科としての取組

- ・学習到達度の確認や指導と評価の一体化
- ・基礎、基本の充実 など

②学校教育活動全体での「学び合い」に関連する取組

- ・よき伝統「富士見魂」の継承
- ・生徒会活動の充実 など

③「学び合い」を意識した学習活動の充実

- ・!(喜び・驚き等)→?(疑問・発想等)→!のサイクルの活用
- ・自尊感情を高める場の設定 など

の3つの要素を意識して研究に取り組みました。



★ちば! 教職たまごプロジェクトを通して…

教員を志望する大学生等を対象に、小学校及び特別支援学校で実践研修を体験するためのプロジェクトです。ここでは、2人の学生の声を紹介します。



週1回、1日同じクラスに入り研修を行っています。各学年・クラスによってカラーが違い、先生方のクラス運営の違いを体験することができています。また、教科指導から生活指導に至るまでを実際に目にすることができ、多くのことを学ばせていただいています。その中で、子どもたちの日々の成長を実感でき、やりがいも感じています。

先日の研修会では、研修生同士で情報交換をする場がありました。短い時間ではありましたが、様々な悩みを共有し、解決するための話し合いをすることができました。

これらの経験をこれからの教員生活に生かしていけるよう、残り少ない研修期間を有意義なものにしていきたいと思ひます。

千葉大学 川島 佳奈子
(研修校：東金市立鶉嶺小学校)

週1回程度、研修校に行き活動をしています。授業の補助や児童への対応、生活指導等、教員としての基礎・基本を学ぶことができています。日々違った対応が求められるので、とても勉強になり、やりがいを感じています。

また、研修会が年に3回程実施されています。先日、2回目の研修会がありました。教職たまごプロジェクトを行っている大学生等が集まり、グループ別で情報交換等を行いました。その後、各グループの代表が話し合いで出た意見を発表して研修の共通理解を図ることができました。

これからも、このような研修会や実践研修を通じて、教員としての資質や能力を高めていきたいと思ひます。

国際武道大学 尾作 壮謙
(研修校：勝浦市立上野小学校)